

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1470900984
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ港北新羽
所在地 (電話番号)	横浜市港北区新羽町2435-17 (電話) 045-540-1855

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35
訪問調査日	平成19年6月29日

【情報提供票より】(平成19年6月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	8人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.8人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階~2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	38,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(900,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300円	昼食 420円
	夕食	530円	おやつ 65円
	または1日当たり 1,315円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤塚外科・胃腸科、ウエルケアクリニック、新羽駅前歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>◇当事業所は、最寄駅から徒歩15分の閑静な住宅地域内にある。近隣にはコンビニや幼稚園、協力病院があり、日常の散歩コースにもなっている。</p> <p>庭に桜とミモザの樹があり、2階のベランダでは富士山を見ながら日光浴が楽しめる。</p> <p>◇サービス面では「本人の尊厳と家族の意志の尊重」を理念に、職員は豊かな感性をもって、心温まるケアの提供を運営方針としている。</p> <p>◇法人の一貫した運営体制を基に、設備面・職員の教育面が充実している。併設のデイサービスとは行事面での交流もある。</p> <p>◇施設長や管理者の指導と、若い職員の柔軟な発想による質の高いサービスの提供を目標に努力している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、2度外部評価を受け、その結果を職員で共有して課題を改善してきたが、地域密着型の受審は今回が初めてである。 ・前回の評価で課題であった、災害時の対応については、その後警察や消防署、町内会の理解と協力を得て改善済みである。
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の自己評価では、各ユニット長が評価案を作成した後、職員に回覧し意見を求め共通理解を図った。最終的には施設長・管理者の判断で取りまとめた。
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで運営推進会議は開催されていない。 ・現在、今後の設置に向けて、町内会会長に協力を依頼済みであり、利用者家族を始め、市町村、地域包括支援センターとも連絡調整しており、早期開催を目指している。
	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の家族会で提出された意見を、スタッフ会議を開催して検討している。 また日常的には、家族と話しやすい雰囲気を作り、面会時に意見や苦情を聞きだす努力をしている。聴取した結果は介護計画に反映してサービスの質の向上に努めている。
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会会長とは、散歩や買い物などの折挨拶を交わしたり、季節の野菜を頂いたりしている。しかし、近隣の住民が気軽に立ち寄って交流するまでには至っていない。 ・町内会に加入しており、老人会の行事への誘いを受けて参加している。緊急の場合の協力をお願いに年1回は挨拶に伺っている。

2. 評価報告書(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の経営理念を、会社案内と重要事項説書に記載し、ユニットごとに掲示している。 ・また、事業所独自の理念を具体的に平易な言葉で作成し、施設内に掲示している。	○	・理念には、「地域の一員としてその人らしく暮らし続ける」といった地域密着型サービスについての役割も取り入れたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念が常に職員の目に触れるようユニットごとに掲示して、日常のサービス提供に役立てている。 ・入所前に理念を理解した上で、就業してもらっており、入所後は日々の申し送りやスタッフ会議など機会あるごとに話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の町内会に加入しており、老人会の行事等の誘いを受けて、敬老会や祭りに参加している。 ・市の委託で近隣町内会向けの認知症講習会を実施した。今後も認知症について知ってもらうよう努める意向である。	○	・近くにある幼稚園との交流を期待したい。 ・地域住民やボランティアとの交流を深めるため、敷地内の広いスペースを畑などに利用することも考えられる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価の意義をスタッフ会議で話し合い、全職員が理解している。今回、自己評価はユニット長が作成して職員の意見を求め、管理者が取りまとめた。 ・前回の外部評価結果は事務所に置いてあり、職員や家族が随時閲覧できるようになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在、運営推進会議開催に向けて各方面に働きかけている。町内会には書面で依頼済みであり、逐次家族や地域包括支援センターにも協力を要請する予定である。	○	・第三者を交えた運営推進会議の開催は、今後の課題であり、実現に向けた早期取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・区役所には、機会を見て出向いて事業所の実情を話している。区役所からの訪問も受け、利用者を紹介して貰った事例がある。	○	・今後は、地域ケアプラザや地域包括支援センターとの連携も検討したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族には、金銭管理表のコピーと共に毎月の生活状況報告書を送り、利用者の状況を報告している。 ・季刊の「ミモザ便り」で、行事の様子等を家族に知らせている。又、ファイル「写真館」を作成して、面会時に閲覧してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に家族と話しやすい雰囲気を作り、意見や苦情を言いやすいよう留意している。意見はスタッフ会議で検討している。 ・年一回の家族会では茶菓の接待などで交流を深め、意見の聴取に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・事業所間の異動などで職員が替わる時は、申し送りノートを利用して、利用者毎のケアの要点をスタッフ間で引き継ぎ、利用者が混乱しないように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・開設当初の外部研修に加え、法人内に取り入れられている「年長者順の制度」で内部研修を実施している。 ・研修結果は研修報告書に記載し、スタッフ会議で報告し、職員間で共有している。	○	・現在行われている職員への内部研修に加え、更に外部研修にも参加することにより、サービスのレベルアップを図ることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会や法人経営の複数事業所間での交換研修に参加している。 ・ネットワークづくりや勉強会については、今後の検討課題である。	○	・今後の検討課題であるグループホーム間のネットワーク作りや、勉強会の実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居の希望があれば本人や家族と面接し、十分な打ち合わせ後、体験入居しながらホームに馴染めるように手順を踏んでいる。 ・ホームに慣れるまでは、状況に応じて家族の頻繁な面会や電話での対応をお願いし、夜間も安心して過ごせるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者に昔の歌を教えてもらい、共に歌って楽しんでいる場面が見られた。 ・職員は利用者を同じ環境で共に過ごす年配者として尊重し、食材の切り方などを教えてもらいながら一緒に調理している。下膳の手伝いには、感謝の言葉をかけていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時の面談で、利用者本人や家族の希望を聞いている。日々の生活の中の様子を観察しながら、利用者の要望の把握に努めている。言語表現できない方からは、行動や表情を注意深く観察することで意向を汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族の面会の際に、十分に話を聞きだし、ケース記録に記載して、ケアカンファレンスで検討している。 ・利用者のその時々状況を把握し、歌の好きな入には唄って貰うなどアイデアを出し合い、利用者本位の介護に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画については、利用者の状態の変化などについて家族の意見も十分に聞き、ケアカンファレンスで検討して見直している。 ・急激なADLの低下に応じて現状を見直した結果、歩行支援から車いすになった例がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者は、併設のデイサービスの音楽療法や書道教室にも参加している。また、水族館の見学などの外出行事に参加したり、状況にに応じてデイサービスの機械浴設備も利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者に掛かりつけ医がある場合は、原則家族に付き添いをお願いしている。 ・かかりつけ医がない場合は、利用者、家族の意向を聞いた上で、近くの提携医療機関を紹介し、同意を得て受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・現在はターミナルケアは行っていないが、症状が重度化した場合や、終末期を迎える場合には、利用者や家族の希望に沿って、医療機関の判断を仰いだり、自宅に戻ったり、他の施設や医療機関へ移れるよう、あらかじめ方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は利用者の誇りや、プライバシーの確保に努めており、適切な態度や言葉かけをしている。 ・個人情報の記録類は事務所に一括して保管しており、施設便りへの利用者の写真については書面で本人・家族の同意を得て掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床・就寝時間や入浴・食事・外出・楽しみごとなど1日の生活がゆったりとした、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。また、職員は利用者のペースに合わせて傾聴し、出来る限り希望に沿えるように対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員と利用者3人が1つのテーブルについて食事を楽しんでおり、一人ひとりのペースに合わせ、見守りや支援が必要な利用者にはさりげなく介助している。 ・箸や湯飲みは馴染みのものである。可能な利用者には配膳・下膳や食器洗いを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は回数や時間など一人ひとりの希望に合わせている。入浴を希望しない入居者には、3日に1回は入ってもらおうよう支援している。浴室は家庭的な雰囲気できつろいで入浴できる。また、手すり、シャワーチェアなどを用意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの、できることできないことを把握し、掃除、布団干し、洗濯たたみ、花の手入れなどの役割分担や、テレビ・歌・書道・塗り絵の楽しみごとなど利用者の選択に応じて支援している。 ・「綺麗に咲いてね」と職員と花に声掛けするなど、楽しそうな場面が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・周辺は坂道が多く外出が困難な状況であるが、歩ける利用者は近くの公園やお寺へ行って鐘をついたり、困難な利用者は車で買い物や公園などに行けるよう利用者の希望に沿って支援している。また、日常は庭に出たり、屋上へ出て景観を楽しんでいる。	○	・ボランティアの力を借り、施設の広い庭を利用して畑や花壇を作ったり、利用者が野菜を栽培したり、又庭での散策が楽しめるような工夫が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵を掛けないでの見守りを原則とし、居室はもちろん日中は庭への出入り口も開放している。また、2階のドアには鈴を付け、利用者の出入りを見守る工夫がされている。		
		○災害対策	・年2回消防署の協力で避難訓練を実施しており、		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時用に飲料水やヘルメット、懐中電灯等を常備している。 ・二階には避難用の滑り台が設置してある。 ・緊急時対応として、消防署や隣の大家さん、近隣在住の職員に協力を依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食材は業者から一括納入している。献立は業者の栄養士が栄養のバランスやカロリーに配慮しており、それをもとにホームで調理している。 ・摂食量や水分量はその都度記録され、咀嚼や嚥下の状態に合わせて4段階の嚥下食を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間は広くゆったりとして、ソファーやマッサージチェアが設置され、窓やカーテンを適時開閉して通風・採光に気遣い、室温を調整している。 ・室内は季節の花が活けられ、職員の穏やかな話声中、テレビや食堂の調理する音や匂いなど、日常の生活リズムがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具や身の回り品は使い慣れたものや好きなものを持ち込み、自宅と同様の生活をしている。仏壇や箆笥、写真、絵画などは入居者の自室を再現している。 ・居室内の換気や温度調節も職員が季節やその日の状況に合わせて調節している。		